

技術情報

J A 全農やまぐち

TAC 営農推進課 (083-988-0681)

平成 23 年 4 月 4 日 発行

第 141 号

麦類赤かび病の防除対策について

本年は 5、6 月の気温が高いことが予想されており、赤かび病の発生が増加することが懸念されます

防除時期の基準となる麦類の出穂は 11 月中旬までに播種した圃場では平年並み～やや遅い、12 月に播種した圃場では遅いと予想されています。

つきましては、出穂状況をよく観察するとともに下記及び 3 月 31 日山口県病害虫防除所発表の技術資料第 14 号（別添写）を参考に、適期防除が徹底されるようご指導をお願いします。

記

1 防除時期

(1) 1 回目：この時期の防除が最も重要です。出穂状況を観察するとともに以下の例を参考に適期防除に努めてください。

防除時期の目安（例）（山口県農林総合技術センターほ場：平成 22 年 11 月 16 日播種）

麦種	品種	1 回目防除時期		穂揃期		
		防除時期	防除適期の目安	本年予測	平年比	前年比※※※
小麦	農林 61 号	開花始め※	4 月 23～25 日	4 月 21～22 日	2～3 日遅い	1～2 日遅い
小麦	ニシノカオリ	開花始め※	4 月 19～21 日	4 月 17～18 日	3～4 日遅い	4～5 日遅い
小麦	ふくさやか	開花始め※	4 月 18～20 日	4 月 16～17 日	3～4 日遅い	3～4 日遅い
裸麦	イチバンボシ	開花始め※※	4 月 12～15 日	4 月 12～13 日	4～5 日遅い	10～11 日遅い
二条大麦	アサカゴールド	穂揃期後 10 日目頃	4 月 20～21 日	4 月 10～11 日	4～5 日遅い	5～6 日遅い

※ 穂揃期後 2～3 日目頃、※※ 穂揃期～穂揃期後 2 日目頃

※※※ 山口県農林総合技術センター調査成績より算出

(2) 2 回目：第 1 回目の防除後、7～10 日目頃

(3) 3 回目：第 2 回目の防除後、7～10 日目頃

(4) 詳細は病害虫防除所技術資料第 14 号を参照してください。

2 防除薬剤及び使用方法

病害虫防除所技術資料第 14 号を参照し、麦種ごとの登録内容を確認の上、適正に散布してください。

3 発生生態と被害

(1) 発生生態

- ・ 病原菌は被害種子や罹病残渣、稲わら、イネ科雑草などの上で越冬し、春、胞子が飛散して穂に感染します。
- ・ 感染は出穂から約 2 週間の間が起りやすく、中でも開花期の感染が顕著です。この時期に曇天、小雨が続き、温度が高いと多発します。

(2) 被害

- ・ 赤かび病の発生により収量や外観品質が低下しますが、特に問題となるのは、病原菌が産生する人や家畜に対して有害なかび毒（マイコトキシンの一種デオキシニバレノール）が 1.1ppm(ppm は 1/100 万)を超えると、販売できなくなることです。このため、赤かび病被害粒混入規格（許容限度）は被害粒率 0.0%（検査粒数 1000 粒に全く混入しないこと）と厳しいものとなっています。

以上

平成22年度農作物病虫害発生予察技術資料第14号

平成23年(2011年)3月31日
山口県病虫害防除所

ムギ類の赤かび病の防除について

本年のムギ類の出穂は11月中旬までに播種したほ場では平年並み～やや遅い見込みです。

ムギ類赤かび病の防除は第1回目の防除が最も重要であることから、時期を逸しないよう下記により防除の徹底をお願いします。

記

1 防除時期(表1)

- 1回目：小麦：開花始め(穂揃期後2～3日頃)
裸麦：開花始め(穂揃期～穂揃期後2日頃)
二条大麦：穂揃期後10日頃(開花しない(閉花受粉する)ため)
- 2回目：第1回目の防除後、7～10日頃
- 3回目：第2回目の防除後、7～10日頃

表1 防除時期の目安(山口県農林総合技術センターほ場：平成22年11月16日播種)

麦種	品 種	1回目 防除時期の目安	穂揃期 注1)		
			本年予測	平年	平年比
小麦	農林61号	4/23～25	4/21～22	4/19	2～3日遅い
小麦	ニシノカオリ	4/19～21	4/17～18	4/14	3～4日遅い
小麦	ふくさやか	4/18～20	4/16～17	4/13	3～4日遅い
裸麦	イチバンボン	4/12～15	4/12～13	4/8	4～5日遅い
二条大麦	アサカゴールド	4/20～21	4/10～11	4/6	4～5日遅い

注1) 推定有効茎数の約80～90%が出穂した日(出穂期の2日後)を穂揃期とした。

注2) 防除時期は、播種時期や肥培管理、出穂期前後の気象条件で前後するため、ほ場をよく観察する。

2 防除薬剤

表2、3による。

3 防除上注意すべき事項

ア 12月に播種したほ場の出穂期は平年に比べ遅い見込みであるため、今後の出穂状況に注意する。

イ 穂に症状(桃色のかび)が認められるのは乳熟期以降であるため、症状がみられなくても、3回の防除を必ず実施する。

ウ 開花期が最も感染しやすいので、防除時期(表1)が遅れないようにする。

エ 農薬使用基準を遵守する(表2、表3)。なお、農薬散布の際は他作物に飛散しないように注意する。

表2 ムギ類赤かび病の主要防除薬剤(平成23年3月30日現在)

大グループ名	作物名	薬剤名	農薬使用基準				
			使用濃度	10a当たり使用量	使用時期 (収穫前 使用日数) (日)	使用回数 (回)	成分含む 総使用回数 (回)
麦類 (小麦 除く)	—	ストロビーフロアブル	2000~3000倍	60~150L	14	3	3
麦類	—	トリフミン水和剤	1000~2000倍	—	14	3	3(種子粉衣は1回以内)
麦類	—	石灰硫黄合剤	50~60倍	—	—	—	—
麦類	—	サルファゾール	400倍	—	—	—	—
麦類	—	ワークアップ粉剤DL	—	3kg	14	2	2
麦類 (小麦 除く)	—	トップジンM粉剤DL	—	4kg	14	3(出穂 期以降 は1回以 内)	3(但し、種子へ の処理は1回以 内、出穂期以降 は1回以内)
—	—	トップジンM水和剤	1000~1500倍	—	30	3	3
—	小麦	ストロビーフロアブル	2000~3000倍	60~150L	14	3	3
—	小麦	ワークアップフロアブル	2000倍	60~150L	14	2	2
—	小麦・大麦	チルト乳剤25	1000~2000倍	60~150L	(小麦) 3 (大麦) 21	3 1	5(根雪前は2回 以内、春期以降 は3回以内)
—	小麦・大麦	シルバキュアフロアブル	2000倍	60~150L	(小麦) 7 (大麦) 14	2 2	3(根雪前は1回 以内、融雪後は 2回以内)
—	小麦	ヘルケト水和剤	1000~2000倍	60~180L	21	3(出穂 期以降 は1回以 内)	4(種子への処理 は1回以内、散布 及び無人ヘリ散 布は合計3回以 内、出穂期以降 は1回以内)
—	小麦	トップジンM粉剤DL	—	4kg	14	3(出穂 期以降 は2回以 内)	4(但し種子への 処理は1回以内、 散布及び無人ヘ リ散布は合計3 回以内、出穂期 以降は2回以内)
—	小麦	トップジンM水和剤	1000~1500倍	—	14	3	3

表3 無人ヘリコプター用のムギ類赤かび病の主要防除薬剤(平成23年3月30日現在)

大グループ名	作物名	薬剤名	農薬使用基準				
			使用濃度	10a当たり使用量	使用時期 (収穫前 使用日数) (日)	使用回数 (回)	成分含む 総使用回数 (回)
—	小麦・大麦	チルト乳剤25	8倍	0.8L	小麦 7 大麦 21	3 1	5(根雪前は2回 以内、春期以降 は3回以内)
—	小麦・大麦	シルバキュアフロアブル	16倍	0.8L	小麦 7 大麦 14	2 2	3(根雪前は1回 以内、融雪後は 2回以内)
麦類 (小麦 除く)	—	トップジンMゾール	8倍	0.8L	21	3(出穂 期以降 は1回以 内)	3(但し種子への 処理は1回以内、 出穂期以降は1 回以内)
—	小麦	トップジンMゾール	8倍	0.8L	14	3(出穂 期以降 は2回以 内)	4(但し種子への 処理は1回以内、 散布及び無人ヘ リ散布は合計3 回以内、出穂期 以降は2回以内)